

2021年2月18日

三菱一号館美術館2021-2022展覧会スケジュールのお知らせ

三菱創業150周年記念 三菱の至宝展



国宝《曜変天目(「稲葉天目」)》建窯 南宋時代(12~13世紀)
(公財) 静嘉堂所蔵

2021年6月30日(水)~9月12日(日)

主催：三菱一号館美術館[三菱地所(株)]、公益財団法人静嘉堂
公益財団法人東洋文庫


特別協力：公益財団法人三菱経済研究所

三菱を創業し、4代にわたり社長をつとめた岩崎彌太郎、彌之助、久彌、小彌太は文化財に多大な関心を抱き、その収集品は現在、それぞれ静嘉堂と東洋文庫に収蔵されています。彼らは当時の学者や芸術家とも交流し、その収集の態度は社会に貢献する広い視野をもったものでした。本展では、初代岩崎彌太郎から小彌太に至る、芸術文化の研究・発展を通じた社会貢献の歴史をたどりつつ、静嘉堂、東洋文庫の所蔵する国宝12点、重要文化財31点を含む美術工芸品、古典籍などに三菱経済研究所の所蔵作品をあわせて、貴重な作品群100点余りを展覧します。また、本展は静嘉堂と東洋文庫の所蔵品が一堂に会する貴重な機会となります。

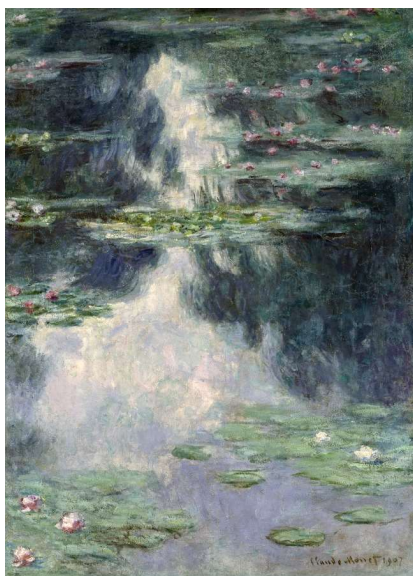
イスラエル博物館所蔵 印象派・光の系譜 —モネ、ルノワール、ゴッホ、ゴーガン(仮)

2021年10月15日(金)~2022年1月16日(日)

主催：三菱一号館美術館[三菱地所(株)]、産経新聞社

 the israel museum, jerusalem

約50万点の文化財を所蔵するイスラエル博物館は、印象派も珠玉のコレクションを誇ります。本展は同館から、印象派に先駆けたコロー、クールベ、ブーダン、そしてモネ、ルノワール、シスレー、ピサロ、この流れを発展させたポスト印象派のセザンヌ、ゴッホ、ゴーガン、さらに印象派の光と色彩の表現を独特の親密な世界に移し変えたナビ派のボナールやヴイヤーの作品約70点を厳選し、印象派の光の系譜をたどります。なかでも、「睡蓮の画家」とも呼ばれるモネの最も有名な「連作」のうちの一点《睡蓮の池》は、特に「当たり年」と評される1907年に描かれたものです。この画家全盛期の作品を含めた出品作の大半が、日本初公開となります。



クロード・モネ《睡蓮の池》1907年、101.5×72.0cm、イスラエル博物館所蔵
The Israel Museum, Jerusalem, Gift of The Jerusalem Foundation from the Sam Spiegel Collection
Photo © The Israel Museum, Jerusalem

上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー

2022年2月18日(金)~5月15日(日)(予定)

主催：三菱一号館美術館[三菱地所(株)]、朝日新聞社

フェリーツェ・リックス(後の上野リチ|1893-1967)は19世紀末のウィーンに生まれました。彼女はウィーン工芸学校で先進的なデザインを生み出したウィーン工房のヨーゼフ・ホフマンらに師事、早くから才能を開花させ、工房の一員として頭角を現します。現地に留学中の建築家・上野伊三郎と出会って結婚し来日、第二次世界大戦前は京都とウィーンを往来して活動を続け、戦後は京都で主に教育者として後進の指導にあたりました。本展では、二つの街でデザイナーとして活躍した上野リチの多彩で魅力溢れるデザイン世界の全貌を、関連作家の作品を加えた約250点で紹介。オーストリア応用芸術博物館(ウィーン)、クーパー・ヒューイット スミソニアン・デザインミュージアム(ニューヨーク)、京都国立近代美術館など、国内外から作品が集結する世界初の包括的回顧展です。



「上野リチ・リックスのポートレート」1925年頃、オーストリア応用芸術博物館蔵
上野リチ・リックス(デザイン)/ザルブラ社(製作)《壁紙「そらまめ」》(4種)
1928年以前、京都国立近代美術館蔵